



▲囲炉裏を囲んで、
年中行事の説明を聞く参加者
撮影：市民カメラマン 加藤秀雄さん

特集
福島市民家園巡り

生きた文化に触れる 小さな冬の旅

福島市民家園は、江戸中期から明治初期にかけての民家や芝居小屋、商人宿、料亭などが移築復元されています。いつもすがすがしく掃き清められた民家の前に立つと中から主が出迎えてくれそうなほど生活感に溢れています。かつて私たちの先祖が周りの自然に心から感謝しながら暮らしていたことが伝わってきます。

現在、ボランティアの皆さんの協力により地域に伝わるさまざまな年中行事の再現も行っています。自然への感謝と畏敬の念を大切に暮らしていた祖先の「生き方」生活の技術——を体験してはいかがでしょうか。



1 旧広瀬座

— 国指定重要文化財 —



明治20(1887)年頃、一大娯楽施設として建てられた芝居小屋です。舞台中央に人力で回転する回り舞台、その床下に奈落があります。楽屋の板壁には、当時来演した役者たちの落書きが多数残されています。現在も年に数回、公演会場として使われています。

2 旧奈良輪家

— 福島県指定重要文化財 —



18世紀中頃の建築とされる上層農民層の住居です。にわ(土間)が広く、奥に一部屋の座敷があるのが特徴です。側面と背面が厚い土壁で開口部が閉鎖的。上屋柱が計15本も現(あらわ)し*になっているなど古い民家の要素を保つ建物です。
*柱や梁などの構造材が見える状態で仕上げる手法



3 元客自軒(旧紅葉館)

— 福島市指定有形文化財 —



慶応4(1868)年に起きた世良修蔵暗殺事件の重要な舞台となったことで知られる元客自軒は、幕末から明治初期にかけて市内北町に所在した割烹旅館でした。

歴史をひもときながら巡れば
素朴な昔の暮らしが
深く心に染み入ります

◆ ◆

昭和57(1982)年に開園した福島市民家園(入園無料)は、四季を通して幅広い世代の方々に親しまれている施設です。祖先の暮らしをしのぶことができるだけでなく、若い人や子どもたちにも学びの場になるようにという願いを込めて開園しました。

荒川のせせらぎが聞こえる松林の中に佇む建物群は20棟あり、養蚕農家や宿場町の宿屋など、県北地方を中心とした特色のある建物を自由に見学することができます。曲がった柱や梁、踏み固められた土間など、当時のままの建物内部には、生活用具や生産用具も再現配置されています。また、民家の周りには、井戸や風呂場、板倉、火の見やぐら、屋敷神など、昔の暮らしが分かるように再現されているので、歩いていくうちに、昔の福島市にタイムスリップしたような錯覚を覚えます。

市内の建造物として初の国指定重要文化財となった「旧広瀬座」は、舞台中央に人力で回転する回り舞台、その床下には奈落もある明治時

1 旧広瀬座
代の芝居小屋です。広大な敷地のほぼ中央にある旧奈良輪家は、18世紀中頃の建築とされる住宅で、奥の「座敷」の列が多いほか「とりのま」や広い「にわ(土間)」があるのが特徴です。料亭「元客自軒」も民家園を代表する建物の一つです。明治中期に、福島市の自由民権運動の中心人物、河野広中が当時の所有者の求めに応じ紅葉館と命名しました。この建物は、昭和時代まで下宿屋として使われました。

家屋が建てられた時代や歴史などをひもとくながら巡ると散策もより深く心に残りますね。